

佳作 実習のもう一つの側面



イマム ククー プラダナ
IMAM KUKUH PRADANA
国 籍 インドネシア
職 種 たて編ニット生地製造
実習実施者 岩田ニット株式会社
監 理 団 体 協同組合 CEO

「FOMO」という言葉を知っていますか？これは大多数のすることは正解だと思う人々のことで、最近の流行になっています。インドネシアでは多くの若者が大学へ進学するか就職するかで悩んでいます。家族を支えるために仕方なく働くケースもあります。その一方でみんなが行くからと友達を追いかけて進学したり、興味のない専攻を選んだりしています。なぜなら、まわりの人に頭が良いと思われたかったり競争相手を少なくなるためです。なので、目標がない何人かの友達は大学を出た後で何をしたら良いのか分からなくなっています。

そのような中で技能実習生というプログラムは僕に解決策を与えてくれました。技能実習生はお金を稼いだし、自己理解や自分の長所を探すための場所です。この意見には賛成の人がいるかどうか分かりませんが、僕にとって技能実習生とは自由に物を買って何かをする場所です。以前はそのことができませんでした。たとえば好きな時に好きな本を買ったり、オンラインコースを受けたりすることです。

昔は、日本にいと自然に日本語が上手になると思い

ましたが、実際は無理です。日本人と意思疎通のミスをとくさんするので、分かるようにしっかり日本語を勉強しなければなりません。しかし、単語をとくさん暗記して、文法を勉強しても日本語が上手に話すわけではありません。どうしても、日本人と話す時に口から単語がまったく出てこないのです。

会話を上達するには、やはり実践が必要だと気づきました。しかし、会社の仕事が忙しく、日本人と話す機会が少ないため、会話の練習はあまりできません。この問題を解決するために、練習できる方法を探しました。インターネットでは無料と有料のサービスが見つかりました。有料のほうが質が高く、効果も大きいです。スキルの向上のためなら迷わず受講する価値があると思いました。

お金に余裕があるので、自分を知るための道具を買うこと以外家族に送金もできるし、貯金もできます。そして技能実習生には将来の地図もあります。僕は日本語知るようにになりました。興味を手に入れることができました。日本語を上手に話すことができれば日本に留学したり、より良い仕事をもらうことができるとしています。僕は日本語を勉強して翻訳者になりたいです。日本語が上手になってインドネシアと日本のかけはしになりたいです。インドネシアの文化を日本へ、日本の文化をインドネシアへ伝えたいと思っています。

その旅は決して楽ではありませんが、人生を歩む上で後悔のない、正しい道にしたいと思っています。自分の本当の姿を見つけ、大切な人たちを助けることができるのは何よりの幸せです。光は目標が分かった後でいろんなチャンスに案内してくれます。